

事忝田敬一郎氏は就任と同時に勞資兩方面と意志の疏通
 を計るべく各官廳、公共團體、工業俱樂部の各幹部と協
 議するところがあつたが、更に十一月二十一日には友愛
 會、信友會、正信會、日本交通勞働組合以下勞働組合同
 盟所屬の十三團體、大日本機關車乘務員會、鐵道院現業
 員會その他砲兵工廠、海軍工廠、專賣局、内閣印刷局等
 の官營工場の各團體全部を網羅した勞働團體の代表者も
 招待して懇談せんとした。然るに前記勞働組合同盟に屬
 する十三團體はこの招待を拒否し、當日の出席者は僅か
 に二十二名に過ぎなかつた。引續き協調會宣傳のため西
 下せし忝田、田澤の兩常務理事は十二月五日大阪に於て
 友愛會神戸聯合會主催の京都聯合會長高山義三氏退學款
 迎會に招待され、其の席上大阪聯合會長西尾末廣氏より

次の如き四箇條の質問を提出され、その解答を求められ
 た。即ち

- 一、産業發達上資本家のみありて勞働者なくして可
なりや
 - 二、勞資の協調は勞働者と資本家との人格價値の平
等に立脚せおして可なりや
 - 三、資本家の自覺は如何にして行ふ意なりや
 - 四、現今の社會状態に於て階級闘争を否認する論據
如何
- 右に對して田澤理事は次の如き答解をなした。即ち
- 一、私有財産制度を是認する今日資本家なくして一
國の産業の發達は難しと思ふ
 - 二、勞働者も資本家も相當の人格價値に立脚すべき